

54 相良市郎兵衛藤原長政の墓

(サガライチロベエフジワラノナガマサノハカ)

指 定 平成 10 年 6 月 26 日 町指定文化財—史跡
所在地 平内大山



相良市郎兵衛は、第 27 代藩主、島津斉興の側室、お由羅の方の妹の夫であり、江戸三田藩邸のお庭奉行の役職にあったものである。嘉永 2 年(1849)12 月、斉彬の藩主襲封を意図して、反対派のお由羅、久光、家老島津将曹、兵道家牧仲太郎等の暗殺計画が発覚し、首謀者の物頭町奉行近藤隆左衛門、鉄砲奉行山田一郎左衛門清安、船奉行高崎五郎右衛門^{やすはる}温恭、家老島津吉岐久武、物頭赤山鞠負等は、切腹、磔刑等極刑に処せられ、その他一味の屋久島奉行吉井七郎右衛門泰論、相良市郎兵衛等 50 余名が厳しい処分を受けた。薩摩藩の世継騒動としては最大のもので、この事件は嘉永朋党事件、高崎崩れ、近藤崩れ、お由羅騒動と呼ばれている。相良市郎兵衛は、この事件に連座して子の壮一郎と共に遠島に処せられ、嘉永 3 年 4 月、市郎兵衛は江戸から屋久島平内に隠居、御小姓の壮一郎は大島名瀬に流された。

平内での市郎兵衛はダンナジイと呼ばれ、若い地元の娘が世話をしていたが老齢のため子ができず地元の子供二人を養子にむかえ相良の姓を継がせた。市郎兵衛は安政 3 年(1856)6 月には、平内西開墾の字新八野の山中に一品法寿大権現の碑を花崗岩の大石の上に建て何事かを祈願する場を作っていたが、文久 2 年(1862)10 月、平内に来てから 13 年後に死亡した。法名は華遊軒春山芳水居士。事件の関係者の多くは斉彬の藩主襲封後(嘉永 4 年 2 月)、安政 2 年(1855)6 月頃には許されていたが、市郎兵衛は許されず、平内で死亡した。

